

▼ 目次 ▼

- 1.活動報告
- 2.コラム「境を越えた瞬間」
- 3.事務局よりお知らせ

■活動報告

【2019年7月】

- ・3日(水)岐阜大学にて講演、学生ヘルパー募集
- ・6日(土)理事の利用者訪問
- ・7日(日)END ALS への説明。協力依頼
- ・8日(月)NPO ジムネットへの説明。人材の紹介
- ・10日(水)TV 番組制作担当者取材
- ・12日(金)臨床福祉専門学校にて PR
- ・17日(水)『【せりか基金×コヤチュー部オンライン部室】NPO 法人「境を越えて」理事長 岡部宏生さん 公開インタビュー』にて PR
- ・25日(木)名刺交換会参加
- ・27日(土)勉強会“ゆたカフェの集い”に参加し PR
- ・29日(月)企業へ訪問し PR。共同通信社取材

■コラム「境を越えた瞬間」：山崎彩恵(介護福祉士)



先日、ALS の方のケアの研修に同席しました。介助者はできるだけ早くその方の意思を聞いてあげようと、ナースコールによる合図に合わせてあかさたな話法という方法で、発話できない当事者とコミュニケーションをとっていました。

「あ行？か行？さ行？さしすせ、せなか？を？もむ？では、『せなかを揉んでくれ』ですか？」と介助者が聞きました。これはまさしく正解で、かつそのスピ

ードも申し分なく、私は「すごい！」と思いました。もしも自分であったら間違いなく、その結果に満足し、境を越えた気持ちになっていたと思います。しかし、この ALS の方が次に伝えたのはこんな言葉でした。

「自分は今、『背中をもんでくれ』と言ったのではありません。『背中をもんでください』と、言ったのです。」

確かに、その方がパソコンで視線入力しているのを見ていると、“来てくれた”という文章を、時間がないにもかかわらず、“いらっしやっ”と敬語に打ち直しているのです。罹患前は大企業に勤め、仕事一筋で生きてきたこの方にとって、丁寧な言葉は自分の過去を守り、今の自分を保つためにあるような気がしました。そして、それは決して弱さではなく、その方の生命力の源や強さが、そこにこそ隠れているのではないかという気がしたのです。これに気づいたとき、私は今度こそ境を越えていけそうな気がしました。介助者として独り善がりの達成感ではなく、その方が何を思っているのか、何をしたいのか、その言動の一つ一つに寄りそい、向き合っていきたいと思った瞬間でした。発話困難な重度身体障がい者のコミュニケーション介助において、もしかしたら介助者は当事者の言いたいことを先回りして的中させることを追い求め過ぎない方が良いのかもしれませんが。当事者ご本人の気持ちや希望に真摯に向き合い、自然と寄り添っていく姿勢こそ、その方の本当に大切な思いを発信していくという役割を担えるのかもしれませんが。

◆あかさたな話法とは



山崎と四肢麻痺で発話障害のある天鳥さん

あかさたな話法とはヘルパーが 50 音を読み上げ、該当の文字のところで当事者が合図を出すコミュニ

ケーション方法。天島さんの場合は写真のように該当の文字で腕を引いて合図を出している。文中の方はナースコールで合図を出している。

参考文献『声に出せないあ・か・さ・た・な—世界にたった一つのコミュニケーション。』天島大輔（2012）生活書院

## ■事務局より

6月のイベントの後処理や取材等もひと段落したところです。現在は当事者の介護体制作りと次のイベント企画に向けて始動しています。参議院選挙では重度障害者が当選しました。賛否はあると思いますが議論を引き起こすには大変よい機会であると思います。障害者が暮らしやすい社会は誰もが暮らしやすい社会であるはずで、誰もがいつ障害を持つようになるかわからないのですから、これをきっかけに誰もが「居場所」がある社会に少しでも近づいてほしいと思います。

~~~~~  
発行者：特定非営利活動法人 境を越えて

編集委員：鈴木翔三、山崎彩恵、本間里美

Address：〒135-0016 東京都江東区東陽 3-28-9-1001

TEL：03-6666-7506

E-Mail：info@sakaiwokoete.jp  
~~~~~